

創立 50 周年記念講演会に参加して

令和 6 年度講演会は、当協議会創立 50 周年記念講演会として実施され、併せて、協議会活動を紹介した展示会も同時開催されました。

講演会は、令和 6 年 11 月 8 日（金）14 時から、田中茂会長のあいさつで始まり、田代省三講師（JAMSTEC/日本海洋事業 アドバイザー）から、「深海～潜水調査船しんかい 6500 でみた世界～」と題して、横須賀市自然・人文博物館にて 46 名の参加を得て開催されました。田代講師の臨場感あふれる講演に、参加者は熱心に目と耳を傾け有意義で貴重な講演会となりました。

住友重機械エンバイロメント株式会社
環境技術センターセンター長 知久治之



《 会長挨拶 》

「潜行回数 318 回？」

田代先生は香川県ご出身。乗り物好きが高じて、神戸商船大をご卒業されてから海洋科学技術センター(現 JAMSTEC)へ入所されている。「しんかい 2000」の初代コパイロット、「しんかい 6500」の初代チーフパイロットを通じ、潜航回数 318 回の実績をお持ちである。世界の潜水艇のパイロット仲間では、この潜航回数が権威となるらしく、上記以外の横浜ドリームランドにあったレジャー用潜水艇ほかの 3 回をプラスして(水増し?)、321 回の実績にしている…とユーモアを交えてのご講演でした。



《 公演中の田代講師 》

「海の地図はわずか25%？」

地球には海があるため、正確な地図はまだ半分も無いとのこと。現在、海のわずか25%しか正確な地図は無く、海はまだ未開の地。今後とも、海洋は科学のフロンティアになり得ることを教えていただきました。

「ヨコヅナイワシが深海の親分？」

潜水調査には、東日本大震災の断層などの調査、深海生物の調査、また海洋資源の調査など、非常に幅広い目的がある。今回、各分野での研究成果の概要を一通り報告いただきましたが、その中でも、巨大深海魚であるヨコヅナイワシの報告が最も興味深い内容でした。イワシの名を付けながら大きな個体では体長が2.5mと大きく、大型バイクサイズ。アミノ酸の窒素安定同位体¹⁵Nの測定により、深海での頂点捕食者（トップ・プレデター）と考えられた、というご発表。深海のサメよりも上位とは、どんな食生活なのでしょう？今も深海にはほとんど知られていないような生物たちがたくさん生きているのでしょうか。夢があります。

「潜水調査は五感が大事！」

最後に潜水調査の意義に関するお話。基本的に海中は電磁波（ラジオコン等）が使えないため、現地（潜水）へ行かないと調査はできない。また、現地調査をすることで、人の五感を通じて感じた内容の記録ができるため、とても重要とのご意見（TV放送に対するスポーツの現地観戦やコンサート、旅行などの意義に近い → お金はそれなりにかかりますけど…）。現場派？の当方として、とても共感させていただきました。



《 熱心な質疑応答 》

「しんかい 6500 模型も展示」

記念講演会と並行して、1F ホールにて展示会が開催され、水質環境調査などの当協議会による活動、会員企業による環境活動への取り組みを紹介したパネルを展示しました。

併せて、講演テーマと連携した、「有人潜水調査船 しんかい 6500」の模型も展示され、講演会への出席者の方々が興味深く熱心に見学されていました。



《 講演会と同時開催の展示会 》



《 展示会のお知らせパネル 》



《 有人潜水調査船「しんかい」 》

ま と め

お陰様で 50 周年記念行事のメインである、講演会を無事開催、終了することが出来ました。経験豊かな現地潜水体験から好奇心溢れる視点に基づき、興味のない貴重な講演を提供いただいた田代省三講師に厚く感謝申し上げます。そして、しんかい 6500 模型の貸与などご尽力いただいた JAMSTEC 様、講演・展示の会場提供など共催をご承諾戴いた横須賀市自然・人文博物館様、2 年にわたって企画から開催までご協力戴いた 50 周年記念プロジェクト委員の皆様には厚く御礼申し上げます。